

■高校野球のケーススタディー（第3回）■

一般財団法人
兵庫県高等学校野球連盟



高校野球のケーススタディー ～こんなプレイどうなるの？～

高校野球における公式試合や練習試合の中で生じたプレイの中で、“こんなプレイ、ルールではどうなるの？”といった疑問について、ルールの側面から解説します。

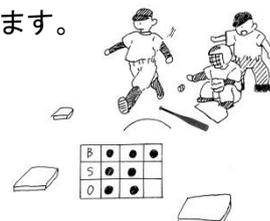
○ 投球カウントが誤ったまま、ゲームが進行していますが・・・

練習試合でのこと。2死走者なしで3B-2Sとなりましたが、スコアボードには、2B-2Sと誤った表示。次の投球がボールの判定となり、四球のはずですが、打者は1塁へ進もうとしません。スコアボードには、3B-2Sと誤った表示がされています。その後、次の投球がされてしまい、それを打者が打ってセカンドフライで3アウトチェンジになりました。（試合後、スコアラーからの報告でカウント誤りが発覚しました。球審も誤りに気が付かずにプレイを続行していたようです。）

このケースでは、本来、打者は四球で1塁へ進塁すべきところですが、次の投球の打撃でアウトになったので、アウトが正当化されるのでしょうか。それとも、アウトになっても誤りに気が付けば四球として、アウトを取り消すことができるのでしょうか。ルールの側面から考えてみましょう。

2019年度の公認野球規則の改正では、8.02(c)の末尾に次の文章が追加されています。

投球カウントの誤りの訂正は、投手が次の打者への1球を投じるまで、または、イニングや試合の最終打者の場合には守備側チームのすべての内野手がフェア地域を離れるまでに行なわなければならない。

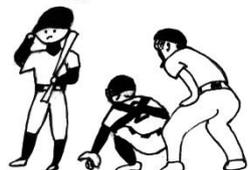
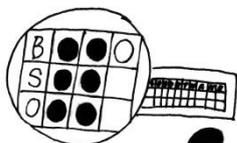


このケースでは、セカンドフライで3アウトとなり、攻守交代となりましたが、投手を含むすべての内野手がフェア地域を離れるまでに審判員がカウント誤りに気が付いておれば、打者を1塁へ進塁させ、正しく試合を継続することができたのでした。

なお、カウントの誤りの訂正は、審判員自身はもちろんのこと、記録員も9.01(b)(2)【注】により審判員に助言を与えることができます。高校野球では、投球カウントについては、球審と2塁の審判員で確認しながら、ゲームを進行しています。

ところが、スコアボードのカウント表示について、普段慣れていない生徒などが行うこともしばしばあり、残念ながらカウントが誤った状態で進む場合もあります。

高校野球においては、このような投球カウントの誤りの訂正におけるルールについても理解しておく必要があるでしょう。



表題デザイン・イラスト協力：兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科

坂田 朋葉さん（2年）

飛田 紀香さん（2年）